

令和4年度 学習指導計画

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位
学科・類型		普通科Ⅱ類		学年	第2学年
使用教科書		実教出版『高校倫理』			
使用副教材等					

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<p>現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題にたいする関心と当事者としての意識を高め、解決のために他者と共同しながら共に思考し、行動しようとする態度を養う。</p> <p>さまざまな社会問題を身近な話題に引き付けて考えるテーマ学習を豊富に設定し、主体的、対話的な授業を通して生徒が社会参画者であることの自覚を深めることを目指す。</p>
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・青年と自己実現 (青年期とはどういう時期なのだろう、現代社会と青年期の生き方、はたらくこと・社会とかかわること、日本の生活文化伝統思想) 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の真っただ中である生徒に、現在自分の置かれている状況を理解し、自分の生き方について思考させる。その上で、生徒自身の夢や将来に関する自分なりの気づきをさせ、進路実現に活かせるよう授業を行う。 ・現代社会が抱えている様々な問題の現状と課題を把握させる。 ・青年期の特徴について主に心理学的な視点から自分が現在おかれている状況を理解させる ・青年期が延長されている現状を把握し、モラトリアムの問題点と意味について考えさせる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての自覚 (ギリシャの思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国の思想) ・国際社会に生きる日本人としての自覚 (日本の風土と伝統、外来思想の受容、町人意識のめざめと庶民思想、西洋思想との出会い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の精神的特性が、日本人の風土とどのように関連しているかを考える。 ・書籍や聞き取り調査などから日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識も持っていたかを理解する。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる人間の倫理 (人間の尊厳、近代の科学革命と自然観、自由で平等な社会の実現、人間性の回復と主体性の確立、現代の思想と人間像、生命への畏敬と社会参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳に関わる思想家の思索を通して、西洋の近代人は人間の尊厳をどこに見出していたのかを考える。 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。 ・先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。

令和4年度 学習指導計画

教科	地理歴史	科目	日本史 B	単位数	4 単位
学科・類型		普通科Ⅱ類		学年	第2 学年
使用教科書		山川出版『詳説日本史B』			
使用副教材等		数研出版『4 ステージ演習ノート日本史B』/浜島書店『新詳日本史』			

【学習の到達目標】

学習の到達目標	我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学期	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> ○人類文化の発生、石器・土器の発掘、竪穴住居の状況など日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ○大陸からの稲作伝播に端を発した、集落形成と墓の変容から東アジア世界との交流と関連付けて考察する。 ○ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察し、政権内での権力闘争を理解する。 ○大陸文化の移入による法治国家の形成過程を考察し、平安王朝の形成を理解する。 ○藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。 ○律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ○地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとりて考察する。
2 学期	第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> ○院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ○政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ○鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ○南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ○織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について考察する。
3 学期	第Ⅲ部 近世 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ○江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を考察する。 ○幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ○武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。 ○17 世紀後半から 18 世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ○農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 ○欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。

令和4年度 学習指導計画

教科	地理歴史	科目	世界史 B	単位数	4 単位
学科・類型		普通科 II 類		学年	第 2 学年
使用教科書		『世界史B』(実教出版)			
使用副教材等		浜島書店『ニューステージ』、実教出版『世界史B 演習ノート』			

【学習の到達目標】

学習の到達目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件と関連付けながら理解させる。 現代世界の特質を広い視野から考察させることによって、歴史的思考力を培う。
---------	------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・先史時代 ・古代オリエント ・古代ギリシア ・古代ローマ ・前漢・新・後漢 ・三国時代～唐の滅亡 ・古代インド・東南アジア ・殷・周・秦 	<ul style="list-style-type: none"> ・人類は各地の自然環境に適応しながら農耕や牧畜を基礎とする。諸文明を築き上げ、やがてそれらを基により大きな地域世界を形成したことを把握させる。 ・離れた時代の事象や海外の事象を取り扱うため、写真や映像、地図を積極的に活用し、イメージの喚起に役立てる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・イスラーム世界 ・ヨーロッパ世界 ・宋・元 ・大航海時代 ・ルネサンス ・宗教改革 ・絶対王政 ・17～18世紀の西欧文化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーラシアの海域及び内陸のネットワークを背景に、諸地域世界の交流が一段と活発化し、新たな地域世界の形成や再編を促したことを把握させる。 ・アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。 ・離れた時代の事象や海外の事象を取り扱うため、写真や映像、地図を積極的に活用し、イメージの喚起に役立てる。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・産業革命 ・アメリカ独立戦争 ・フランス革命 ・ウィーン体制 ・19世紀の欧米文化 ・オスマン衰退 ・清の滅亡 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアの繁栄とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したとともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。 ・離れた時代の事象や海外の事象を取り扱うため、写真や映像、地図を積極的に活用し、イメージの喚起に役立てる。

令和4年度 学習指導計画

教科	地理歴史	科目	世界史 A	単位数	2 単位
学科・類型		普通科Ⅱ類		学年	第2 学年
使用教科書		実教出版 世界史A 新訂版			
使用副教材等					

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.現代日本がどうしてできあがったのか、先人の業績と日本の歩みを学ぶ 2.複雑な社会や経済・文化の仕組みの成り立ちと他国の人々との交流を学ぶ 3.これからの日本のあり方と各自の生き方を考える
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学期	第1章 ユーラシア諸文明の特質 第2章 ユーラシアの交流 第3章 一体化に向かう世界	世界地図を理解させ、各地域の歴史のみならず、地理的・環境的な面にも着目した授業を展開する。学習する地域の衣食住についても包括的に学べるよう配慮する。 ヨーロッパの歴史についてはローマ帝国を中心に、アジア史については中国成立の起源を中心に学習する。
2 学期	第3章 一体化に向かう世界 第4章 アジアの繁栄と世	世界地図を理解させ、各地域の歴史のみならず、地理的・環境的な面にも着目した授業を展開する。所属コースが生活デザイン科ということもあるので、学習する地域の衣食住についても包括的に学べるよう配慮する。 アジアの歴史については中国・イスラーム・インドを中心に、近世の歴史まで学習する。
3 学期	第5章 19 世紀の世界の一体化と日本	産業革命やアメリカ独立戦争など、現代につながる出来事を学び、現代の世界の根源となっている部分を知る

令和4年度 学習指導計画

教科	地理歴史	科目	日本史 A	単位数	2 単位
学科・類型		普通科Ⅱ類		学年	第2 学年
使用教科書		清水書院 高等学校 日本史A 新訂版			
使用副教材等					

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代日本がどうしてできあがったのか、先人の業績と日本の歩みを学ぶ 2. 複雑な社会や経済・文化の仕組みの成り立ちと他国の人々との交流を学ぶ 3. これからの日本のあり方と各自の生き方を考える
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	現代の世界と日本 戦後政治の動向と 国際社会 経済の発展と 国民生活の変化 現代の日本と世界	現在のロシア・ウクライナ情勢を理解するところをスタート地点として学習する。 戦争が起こった経緯を理解するには第二次世界大戦後の世界を理解する必要があるので、この時代から学習を進める。 日本史なので、冷戦期の世界情勢と日本の立場を明確にしながら授業を進めていく。
2 学 期	第一次世界大戦への参戦 と国際関係の変化 大戦景気と米騒動 ヴェルサイユ体制 社会運動の高まり 金融恐慌と外交政策 世界恐慌と昭和恐慌	日本が韓国併合や満州への勢力拡張などを通じて植民地支配を進めたことを考察させるとともに、国民の対外意識の変化や近隣諸国の受け止め方について考えさせる。 第一次世界大戦とその前後の国際社会の動向に留意して、我が国の対外政策や大戦が国内の経済・社会に及ぼした影響について考察させる。 大衆社会成立の中での政党政治の発展を、政治や社会運動の動向に留意して考察させる。
3 学 期	満州事変と国際連盟脱退 二・二六事件と日中戦争 第二次世界大戦と日本 アジア太平洋戦争の勃発 戦時下の国民生活	「満州国」建国や華北分離工作などを進め、日中全面戦争にいたった経緯を理解させる。 日本の掲げた「大東亜共栄圏」の実態を理解させるとともに、戦争による多大な犠牲や被害について考察させる。

令和4年度 学習指導計画

教科	地理歴史	科目	地理 B	単位数	4 単位
学科・類型		普通科Ⅱ類(理系)		学年	第2 学年
使用教科書		新詳地理 B(帝国書院)			
使用副教材等		新詳高等地図(帝国書院)			

【学習の到達目標】

学習の到達目標	地図と地理情報システムの活用・国際理解と国際社会・防災と持続可能な社会の構築を意識した問題解決能力を身に着ける。
---------	----------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな地図と地理的技能 ・自然環境(地形の成因や大地形・小地形の仕組みや分布) ・世界の気候 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の歴史や用途に沿って作られた地図、現代世界の地図を学ばせ、地理的事象をとらえるための技能を身につけさせる。 ・自然環境の多様性を学び、人々の生活との関連性を理解する。 ・規模の大きな事象や海外の事象を取り扱うため、写真や映像を積極的に活用し、イメージの喚起に役立てる。
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・世界でおこる環境問題 ・世界の農林水産業 ・世界で起こる食料問題 ・世界のエネルギー・鉱山資源 ・世界の工業 ・第3次産業 ・情報の通信と発達 ・現代世界の貿易と経済圏 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の社会環境をさまざまな角度から学び、理解させる。その中で起こる問題について知り、考察することで問題解決に取り組む力を培わせる。 ・規模の大きな事象や海外の事象を取り扱うため、写真や映像を積極的に活用し、イメージの喚起に役立てる。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人口 ・村落と都市 ・世界の衣食住 ・世界の民族・言語・宗教 ・世界の国家・領土問題 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の社会環境をさまざまな角度から学び、理解させる。その中で起こる問題について知り、考察することで問題解決に取り組む力を培わせる。 ・規模の大きな事象や海外の事象を取り扱うため、写真や映像を積極的に活用し、イメージの喚起に役立てる。

令和4年度 学習指導計画

教科	地理歴史	科目	世界史 B	単位数	4 単位
学科・類型		普通科 I 類		学年	第 2 学年
使用教科書		実教出版 『世界史B 新訂版』			
使用副教材等					

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<p>①古代～19世紀中ごろまでの世界各地の歴史の知識を身につける。</p> <p>②様々な歴史的事象、社会・経済・国際関係などの変化を図や表にまとめ、それぞれの因果関係を説明することができる。</p> <p>③横断的な歴史の見方、捉え方を学び、物事を広い視野で捉えることができる。</p>
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	世界史の基礎知識 先史の世界(原始時代の世界史) 古代史Ⅰ(主にヨーロッパ) 古代史Ⅱ(主に中国) 中世史Ⅰ(主に中国) 中世史Ⅱ(主にヨーロッパ) 古代史のまとめと整理 中世までのイスラム史	<ul style="list-style-type: none"> 世界史を俯瞰し、包括的に理解するために必要な歴史の基礎的知識を身につけさせる。 原始時代の人間の進化および生活様式の変化と文明の発生について理解させる。 古代のヨーロッパで文明が発達した、オリエン特、ギリシャ、ローマ世界について学ばせ、「原始的な社会の仕組み」の形成とその発展について理解させる。 古代より日本に多大な影響を与えた中国の歴史を学ぶことにより、当時の東アジアで先進的であった政治制度や文化がどのように日本へ流入したか理解させる。 中世の中国史から、日本の政治や経済に大きな影響を与えた東アジアの国際関係の変化について捉えさせる。 政治史、社会史、経済史などの観点から各地域の歴史の流れを包括的に捉えさせる。 ヨーロッパ世界において、古代から中世にかけて、強大なローマ帝国が崩壊し、小国が乱立する混乱期になったことを理解させる。 フランク王国の台頭と分裂に伴う西ヨーロッパ各地域の動きを理解させる。 古代史の流れを世界全域から俯瞰し、白地図などを用いることによって、生徒自らが地域横断的視点から歴史を捉える力を養わせる。 イスラム教の始まりと、イスラム思想の展開について理解させる
2 学 期	中世史Ⅲ(主に中国) 中世史Ⅳ(主にヨーロッパ) 近世史Ⅰ(主に中国) 近世史Ⅱ(主にヨーロッパ) 中世史のまとめと整理 中世～近代はじめまでのイスラム・アフリカ史	<ul style="list-style-type: none"> 明朝および清前半期の中国の動きと東アジアの国際関係について理解させる。 中世から近世のヨーロッパ世界において、絶大な影響力を持ったキリスト教および教会の仕組みについて理解させる。 中世ヨーロッパにおいて、小国分立や外部勢力の侵入などの混乱期を克服して成立した封建社会の原理について理解させる。 「十字軍」により、キリスト教世界が拡大し、イスラム世界との摩擦が本格的になっていったことを理解させる。 中世のイギリスとフランスが王権を確立・強化し、徐々に国家の体裁を確立していった一方で、ドイツとイタリアでは王権があまり強化されていかなかったことに着目させる。 15世紀半ばから始まった「大航海時代」により、世界が交易路が拡大し、世界の各地が貿易を通じて影響を及ぼしあう時代になったことに気付かせる。 ルネサンス期のヨーロッパでは、従来のキリスト教の世界観から、人間そのものに着目する価値観に大きく転換したことに気付かせる。 16世紀以降に発展したヨーロッパ諸国の絶対王政や海外政策と「大航海時代」以降に始まった「世界の一体化」と「貿易の拡大」が密接に関連していることを、世界全体の動きから捉えさせる。
3 学 期	産業革命と資本主義社会の成立 近世史Ⅲ(主にヨーロッパ) 近代史Ⅰ(19世紀末までのヨーロッパ) 近代史Ⅱ(19世紀末までのアメリカ) 近代史Ⅲ(清後期～19世紀末までの中国) 近世史のまとめと整理 ～19世紀までの東南アジア史	<ul style="list-style-type: none"> 「産業革命」が、西ヨーロッパ社会の政治や経済体制に大きな変化をもたらし、今日の経済の基本的な仕組みである「資本主義社会」を形成したことを理解させる。 国家のあり方や政治制度に大きな変化をもたらした、近現代の政治思想や人権思想の基盤を生み出す契機になった「アメリカ独立革命」と「フランス革命」について理解させる。 「フランス革命」によってもたらされた、新たな思想や国家の在り方についての考え方の拡大について理解させる。 フランス革命以後の自由主義思想の拡大により、既存の権力を維持したい「支配者層」と既存の権力を打破したい「市民層」が衝突したことを理解させる。 東ヨーロッパにおいては「ロシア」が勢力を伸ばし、世界において存在感を示していく過程を理解させる。 19世紀のアメリカが急激な領土の拡張と工業化を達成し、世界全体に大きな影響を与える国家に発展していく過程を理解させる。 清朝後期に発生した「アヘン戦争」をきっかけに、東アジアにヨーロッパ勢力が侵入し、東アジアにおけるパワーバランスが、大きく転換したことを理解させる。 中国へのヨーロッパ諸国の進出により、中国国内の混乱と変革が起こったことを理解させる。 近世史の流れを世界全域から俯瞰し、白地図などを用いることによって、生徒自らが地域横断的視点から歴史を捉える力を養わせる。 東南アジア史を通じて、東南アジアにおける「諸文化の交わりと独自の文化の形成」の過程に着目させる。

令和4年度 学習指導計画

教科	地理歴史	科目	日本史 B	単位数	4 単位
学科・類型		普通科 I 類		学年	第 2 学年
使用教科書		実教出版 高校日本史B			
使用副教材等		実教出版 演習ノート			

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民の資質と自覚を養う。 ・世界の歴史的な流れを考査し、理解する
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学期	第Ⅰ部 原始・古代 第1章 日本文化のあけぼの 第2章 律令国家の形成 第3章 貴族政治と国風文化	<ul style="list-style-type: none"> ○人類文化の発生、石器・土器の発掘、竪穴住居の状況など日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。 ○大陸からの稲作伝播に端を発した、集落形成と墓の変容から東アジア世界との交流と関連付けて考察する。 ○ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察し、政権内での権力闘争を理解する。 ○大陸文化の移入による法治国家の形成過程を考察し、平安王朝の形成を理解する。 ○藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察させる。 ○律令制に基づく地方統治体制の崩れへの対応が、公領支配の変質、荘園の拡大をもたらした経過を考察する。 ○地方の反乱と鎮圧など、武士の成長と進出過程について、源氏などを例にとりて考察する。
2 学期	第Ⅱ部 中世 第4章 中世社会の成立 第5章 武家社会の成長	<ul style="list-style-type: none"> ○院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。 ○政治の動向、国際関係・経済・文化への対応を踏まえて、平氏政権の特性について考察する。 ○鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程を理解する。 ○南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について日本諸地域の動向などを踏まえて考察する。 ○織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について考察する。 ○江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を考察する。 ○幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。 ○武家政権の支配の進展や東アジア世界との交流に着目して、武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化のかかわりについて理解する。
3 学期	第Ⅲ部 近世 第6章 幕藩体制の確立 第7章 幕藩体制の展開 第8章 幕藩体制の動揺	<ul style="list-style-type: none"> ○17 世紀後半から 18 世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 ○農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。 ○欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。 ○明治新政府の制度改革や富国強兵・殖産興業政策に着目して、明治初期の政治的変革と国家的統一過程を考察する。

令和4年度 学習指導計画

教科	公民	科目	倫理	単位数	2単位
学科・類型		普通科I類(選択)		学年	第2学年
使用教科書		実教出版『高校倫理』			
使用副教材等					

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<p>1、人間の尊重と科学的な探求の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深める。</p> <p>2、現代社会の基本的な問題について、主体的に考察し公正に判断する力を培う。</p> <p>3、社会の在り方を考察する基盤として、幸福、正義、公正などの観点を身に着ける。</p>
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・青年と自己実現 (青年期とはどういう時期なのだろう、現代社会と青年期の生き方、はたらくこと・社会とかかわること、日本の生活文化伝統思想) 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年期の真ただ中である生徒に、現在自分の置かれている状況を理解し、自分の生き方について思考させる。その上で、生徒自身の夢や将来に関する自分なりの気づきをさせ、進路実現に活かせるよう授業を行う。 ・現代社会が抱えている様々な問題の現状と課題を把握させる。 ・青年期の特徴について主に心理学的な視点から自分が現在おかれている状況を理解させる ・青年期が延長されている現状を把握し、モラトリアムの問題点と意味について考えさせる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・人間としての自覚 (ギリシャの思想、キリスト教、イスラーム、仏教、中国の思想) ・国際社会に生きる日本人としての自覚 (日本の風土と伝統、外来思想の受容、町人意識のめざめと庶民思想、西洋思想との出会い) 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の精神的特性が、日本人の風土とどのように関連しているかを考える。 ・書籍や聞き取り調査などから日本の神話や伝承に関する諸資料を収集し、古代の日本人がどのような倫理意識も持っていたかを理解する。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・現代に生きる人間の倫理 (人間の尊厳、近代の科学革命と自然観、自由で平等な社会の実現、人間性の回復と主体性の確立、現代の思想と人間像、生命への畏敬と社会参加) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳に関わる思想家の思索を通して、西洋の近代人は人間の尊厳をどこに見出していたのかを考える。 ・現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考える。 ・先哲の思想の中から、人間の尊厳に関わる資料を収集し、活用する。

令和4年度 学習指導計画

教科	公民	科目	社会基礎	単位数	1 単位
学科・類型		普通科 I 類		学年	第 2 学年
使用教科書					
使用副教材等					

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<p>1、グループで協力し、1つの発表を作り上げる</p> <p>2、文献やインターネットの資料を用いて、自分なりの考えを持つ</p> <p>3、自分の考えを文章や口頭(プレゼン)、ポスターで表現する</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	生命倫理 子どもの問題	<p>単元についての簡易な授業</p> <p>グループ決定</p> <p>テーマ設定・役割分担</p> <p>グループワーク</p> <p>発表</p> <p>まとめ学習(ワークシート)</p> <p>発表ではポスターを作成させる。</p>
2 学 期	未来想造	<p>単元についての簡易な授業</p> <p>グループ決定</p> <p>テーマ設定・役割分担</p> <p>グループワーク</p> <p>発表</p> <p>まとめ学習(ワークシート)</p>
3 学 期	「18歳成人」に関する 自主設定 課題	<p>単元についての簡易な授業</p> <p>テーマ設定</p> <p>調べ学習</p> <p>発表</p> <p>まとめ学習(ワークシート)</p>

令和4年度 学習指導計画

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2単位
学科・類型		生活デザイン科		学年	第2学年
使用教科書		実教出版 『最新 現代社会 改訂版』			
使用副教材等					

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<p>1、グループで協力し、1つの発表を作り上げる</p> <p>2、文献やインターネットの資料を用いて、自分なりの考えを持つ</p> <p>3、自分の考えを文章や口頭(プレゼン)、ポスターで表現する</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境 ・生命科学情報技術の課題 ・青年期と自己の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模で広がるさまざまな環境問題の現状を知り、原因や対策を考えさせる。 ・代理出産・クローン技術・臓器移植などを通じて、生と死における倫理的課題や個人の尊厳について考えさせる。 ・青年期が延長されている現状を把握し、モラトリアムの意味と問題点を考えさせる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の民主政治と日本国憲法 ・現代の経済社会と国民生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権が、どのような歴史を経て獲得されたかを理解させる。 ・日本国憲法の三大原則を理解させ、象徴天皇制のあり方について考えさせる。 ・市場メカニズムなど経済の基礎的な仕組みと概念について理解させる。 ・日本の雇用慣行および労働者をめぐる状況の変化について理解させる。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・共に生きる社会を目指して ・国際社会と人類の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳および誰も平等であることを理解させ、差別的な社会に向けて何ができるかを考えさせる。 ・公正な社会のあり方を、正義や共生という概念を理解させながら考えさせる。 ・グローバル化する日本と世界の現状を理解させ、共生社会の実現に向けて考えさせる。 ・国際協力の現状を理解し、真の国際協力を目指すにはどうしたらよいのかを考えさせる。

令和4年度 学習指導計画

教科	公民	科目	現代社会	単位数	2単位
学科・類型		生活デザイン科		学年	第2学年
使用教科書		実教出版 『最新 現代社会 改訂版』			
使用副教材等					

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<p>1、グループで協力し、1つの発表を作り上げる</p> <p>2、文献やインターネットの資料を用いて、自分なりの考えを持つ</p> <p>3、自分の考えを文章や口頭(プレゼン)、ポスターで表現する</p>
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・地球環境 ・生命科学情報技術の課題 ・青年期と自己の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・地球規模で広がるさまざまな環境問題の現状を知り、原因や対策を考えさせる。 ・代理出産・クローン技術・臓器移植などを通じて、生と死における倫理的課題や個人の尊厳について考えさせる。 ・青年期が延長されている現状を把握し、モラトリアムの意味と問題点を考えさせる。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の民主政治と日本国憲法 ・現代の経済社会と国民生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権が、どのような歴史を経て獲得されたかを理解させる。 ・日本国憲法の三大原則を理解させ、象徴天皇制のあり方について考えさせる。 ・市場メカニズムなど経済の基礎的な仕組みと概念について理解させる。 ・日本の雇用慣行および労働者をめぐる状況の変化について理解させる。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ・共に生きる社会を目指して ・国際社会と人類の課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間の尊厳および誰も平等であることを理解させ、差別的な社会に向けて何が出来るかを考えさせる。 ・公正な社会のあり方を、正義や共生という概念を理解させながら考えさせる。 ・グローバル化する日本と世界の現状を理解させ、共生社会の実現に向けて考えさせる。 ・国際協力の現状を理解し、真の国際協力を目指すにはどうしたらよいのかを考えさせる。

令和4年度 学習指導計画

教科	地理歴史	科目	世界史 A	単位数	2 単位
学科・類型		生活デザイン科		学年	第 2 学年
使用教科書		実教出版 世界史A 新訂版			
使用副教材等					

【学習の到達目標】

学習の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.現代日本がどうしてできあがったのか、先人の業績と日本の歩みを学ぶ 2.複雑な社会や経済・文化の仕組みの成り立ちと他国の人々との交流を学ぶ 3.これからの日本のあり方と各自の生き方を考える
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【学習指導計画及び評価方法等】

	学習内容	学習のねらい・指導上の工夫点・留意点
1 学 期	第1章 ユーラシア諸文明の特質 第2章 ユーラシアの交流 第3章 一体化に向かう世界	世界地図を理解させ、各地域の歴史のみならず、地理的・環境的な面にも着目した授業を展開する。学習する地域の衣食住についても包括的に学べるよう配慮する。 ヨーロッパの歴史についてはローマ帝国を中心に、アジア史については中国成立の起源を中心に学習する。
2 学 期	第3章 一体化に向かう世界 第4章 アジアの繁栄と世	世界地図を理解させ、各地域の歴史のみならず、地理的・環境的な面にも着目した授業を展開する。所属コースが生活デザイン科ということもあるので、学習する地域の衣食住についても包括的に学べるよう配慮する。 アジアの歴史については中国・イスラーム・インドを中心に、近世の歴史まで学習する。
3 学 期	第5章 19 世紀の世界の一体化と 日本	産業革命やアメリカ独立戦争など、現代につながる出来事を学び、現代の世界の根源となっている部分を知る

